

あずまやさん
四阿屋山山行報告

今年もはや弥生 3 月となり、昨年暮れに心不全を患いしばらく山行を自粛していましたが漸く活動を開始しそのスタートに今回の四阿屋山山行のリーダーをやることにしました。

この山は標高もわずか 772m で歩行時間も 4 時間ほどの低山ですが南麓には早春に咲く小さな白い花節分草の自生地があり、また早春には福寿草、蠟梅が春にはアカヤシオツツジ夏は花菖蒲、山百合が観賞できる山で知られています。登山口近くには両神温泉薬師の湯もあり病み上がりの初陣に丁度いい。

予定通り西武池袋線のホームに集合し三峰口まで直行の快速急行に乗る。思ったほど登山客の姿は見えないボックス席もかなり空いている。この電車はお花畑での乗り換えがないのが楽です。飯能を過ぎて高度をあげながら山間部に入っていくと車窓の両側にはたっぷり花粉を蓄えた杉林がみえる。武甲山の特異な姿をまじかに眺めているうちに横瀬駅で切り離された我々の乗る 4 両は 9:17 に三峰口に着いた。それにしても、2 時間 12 分の乗車時間なんと遠いことか。PASMO,SUICA の使えない秩父鉄道すんなり出られず精算手続きを済ませやっとな改札を出て先着の特急組と合流。予約したタクシー 2 台に分乗し、まず節分草自生地のある堂上に向かう。約 20 分ほどで着き、各自 300 円の入園料を払い入園し、約 30 分皆さん写真を撮ったり思い思いに観賞を済ませ、四阿屋山のつつじ新道登山口のある大堤まで戻る。

登山口にある空き地(駐車場)で準備運動を済ませスタート。いきなりジグザグの雑木林から杉林の急坂を登っていく、汗ばんだ顔に樹林を抜ける冷風が心地よい。やがて竹と檜の混在する林の中の山居分岐にある標識「クサリ場・難所(上級者コース)」を躊躇わずそのコースを直登し四阿屋山頂に向かった、女性 3 名は一般ルートを行った。しばらく急坂を登ると最初の鎖場に出る、高さはおおよそ数メートルの垂直の石の壁、見上げると首が痛い。いざ登ろうと鎖を頼りに足場を探して挑むがうまくいかない。岩に足場となる突起部がほとんどなく、脚の短い者には特に堪える。最後は鎖につかまり身体を引きずりあげるようにして漸く壁の上部に立つことができた。過去の経験でもこれほど鎖を頼りに岩場を越えた経験はない。ほとんど 3 点確保で鎖は補助で済むのだが、この岩場は三点支持ができないさすがに上級者コースで看板に偽りなし。そのあと痩せ尾根をいくつかの鎖場と鞍部を越え最後の鎖場を登り切れば四阿屋山山頂に着く。山頂は狭いが木の標識と展望盤がありその一段下に小さな石の祠がある。周囲には樹林があり展望はきかないが一部梢の間から春霞で明瞭ではないが両神山と双子山が見える。下山は登った道を少し戻り上級者コースからの道と出会う分岐を薬師堂へのジグザグの急坂を降りると両神神社奥社に出る。そこから尾根伝いの展望のない杉や檜や栲の樹林の鳥居山コースを下りるとやがて場違いの感がある中華風の建造物(観景亭)が目に入る。果樹園にある数本の白梅が満開だった。そこからすぐ車道に出て少し下ると両神神社から立派な古刹の薬師堂(本尊薬師如来・目薬師)の脇の県道を 3 分ほど行くと道の駅「両神温泉薬師の湯」に着いた。ここで汗を流し、食堂で乾杯しきょうの山行は終わった。今日は小春日和の陽気の中、低山ながら北アルプス級? の鎖場、岩場の雰囲気味わえた山行でした。節分草園も斜面の上の方はまだ未開花でしたが下の方はほぼ満開で可愛らしい白い花が見られました。敢えて上級者コースを使わなくても道もよく整備され標識も随所にあり安心して歩けます。花の季節に花と温泉の山行もいいです。